



# いずみさの昔と今 第244回

## 「日根対山と小川翠村」春から秋の作品

### ②小川翠村が描いた『南国の楽土』

今回は、小川翠村が描いた「南国の楽土」について紹介します。

小川翠村（1902～1964

年）は日根野野々地蔵出身の画家で、18歳の時に京都の西山翠嶂の画塾に入門し、同年に第2回帝展（帝国美術院展覧会）に出品した「朝」が初入選を果たしました。以後、昭和39（1964）年に62歳で亡くなるまで京都に住み、帝展、新文展（文部省美術展）、日展（日本美術展）に出品を続けました。その作品は、大正14（1925）年以前は、「翠邨」の画号で発表されており、大正14年に帝展に出品し特選を得た「廃園晩秋」で「翠村」の画号で発表され、その後は「翠村」で作品発表されるようになります（ただし、「翠村」の画号でも、印は「翠邨」を使っているものもあります）。今回展示している「南国の楽土」は大正10（1921）年、翠村が19歳の時に第3回帝展に出品し、入選をした作品です。屏風に描かれた2つで一对を

なす一双の作品で、縦は（各）220cm、横は（各）370cmです。

翠村はこの作品を描くにあたって、発表の前年の秋に上之郷母山、貝塚市三カ山・木積で風景スケッチを行っています。特に上之郷母山と貝塚市三カ山では、みかん畑やそこで働く人びと、収穫されたみかんが入った籠などのスケッチを行っています。また、図書館の画集から、聖母像や人物のスケッチを行っています。それらスケッチをもとに下絵を作成しました。下絵では「秋の南国」あるいは「南国の秋」と題されていました。最終的には「南国の楽土」として発表されました。

丘陵地帯に広がるたたわに実ったみかんの畑、みかんを刈り取る人びと、労働の間に休憩をする人、収穫の籠に手をいれる子ども、赤ん坊に乳を含ませる女性、収穫されたみかんの入った籠、遠くにみえる海、海に浮かぶ帆船などが描かれてい

ます。余白のない大胆な構図やその平面的な色彩によって、装飾性が強調された作品になっています。レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさので5月1日（日）まで展示をいたしますので、みなさんの来館をお待ちしています。



▲「南国の楽土」(部分)

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）  
開館時間  
午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

### 重要文化財

#### 総福寺鎮守天満宮が修理されました

日根野の久の木地区にある総福寺鎮守天満宮は、桃山時代（1574年ごろ）に建てられた重要文化財です。その本殿の屋根の修理が行われ、檜皮がふき替えられ、本殿の美しい姿が再現されました。

総福寺は国史跡の日根荘遺跡でもあります。鎮守天満宮本殿の修理により日根荘遺跡も整備されました。

問合せ  
教育総務課



### 春の館長講演会

#### 世界遺産と地域遺産

4月1日からレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのは、指定管理者制度へ移行し、公益財団法人大阪府文化財センターが運営を行います。公益財団法人大阪府文化財センターの理事長で、レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの館長に就任する田邊征夫館長の講演会を行います。

日時 4月23日（土）  
午後1時30分～3時（受付：午後1時～）

場所 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの 地階 研修室

定員 60人（先着順）

申込・問合せ先 4月5日（火）以降に直接または電話でレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのへ ※受講無料



▲田邊征夫館長